

平成 25 年度

事業計画書

平成 25 年

公益事業

[1] 美術館事業

① 展示事業—展覧会名とその概要—

(1) [館蔵] 春の優品展—和歌の世界—

・平成 25 年 4 月 6 日 [土] —5 月 6 日 [月]

・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

・休館日＝毎月曜日（4 月 29 日・5 月 6 日は開館）、4 月 30 日 [火]

館蔵品の中から、歌人の肖像画「歌仙絵」、平安・鎌倉時代の「古筆」、歌銘をもつ「名物茶入」や「茶碗」など、和歌に関連した名品約 60 点を展示（会期中一部展示替あり）。

『万葉集』『古今和歌集』等の名歌が生み出す雅な世界を展観する。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4 月 27 日 [土] —5 月 6 日 [月]

(2) [館蔵] 近代の日本画展

・平成 25 年 5 月 11 日 [土] —6 月 16 日 [日]

・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

・休館日＝毎月曜日

館蔵の近代日本画コレクションから、橋本雅邦、横山大観、川合玉堂、下村観山、小林古径、橋本関雪、小茂田青樹など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 30 点を選び展観。宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

(3) [春敬記念書道文庫設立 30 周年記念特別展] 日本の名蹟—和様の書の変遷—

・平成 25 年 6 月 22 日 [土] —7 月 28 日 [日]

・共催＝書芸文化院

・一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

・休館日＝毎月曜日（7 月 15 日は開館）、7 月 16 日 [火]

書家・古筆研究者の飯島春敬氏（1906～96）が、生涯をかけて収集した日本の名蹟や中国の書道関連資料は「春敬記念書道文庫」として結実し、本年は創立 30 周年の記念の年にあたる。その屈指のコレクションから日本の書跡の名品約 100 点を選び展観（会期中一部展示替あり）。

(4) [館蔵] 秋の優品展—禪宗の美—

- ・平成 25 年 9 月 13 日 [金] —10 月 20 日 [日]
- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（9 月 16 日・9 月 23 日・10 月 14 日は開館）、9 月 17 日 [火]、9 月 24 日 [火]、10 月 15 日 [火]

館蔵品の中から、禪宗僧侶の「墨跡」や「水墨画」、盛んな文芸活動を背景に登場した「五山版」など、禪宗の文化を担った優品約 50 点を紹介（会期中一部展示替あり）。「唐物」を取り込みつつ、日本文化の主要な一端を担った禅院の室礼を再現する。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 12 日 [土] —10 月 20 日 [日]

(5) [特別展] 光悦—桃山の^{クラシック}古典—

- ・平成 25 年 10 月 26 日 [土] —12 月 1 日 [日]
- ・一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（11 月 4 日は開館）、11 月 5 日 [火]

本阿弥光悦（1558～1637）は、桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した町衆。書・陶芸に優れ、漆工の意匠や制作の指導、また嵯峨本などの出版に関与したとされる。本展では、あらためて書跡・陶芸・漆芸・出版などの作品について検証し、光悦の事績を再現、その人物像に迫る（会期中一部展示替あり）。

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

- ・平成 25 年 12 月 7 日 [土] —平成 26 年 2 月 16 日 [日]
- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（12 月 23 日・1 月 13 日は開館）、12 月 24 日 [火]—1 月 4 日 [土]、1 月 14 日 [火]

展示室に当館の茶室の床の間の原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 60 点を選び展観。茶匠の茶会記などを参考に道具の取合せを再現する。合わせて、裂箆筥（個人蔵）を中心に「名物裂」を特集展示（会期中一部展示替あり）。

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

- ・平成 26 年 2 月 22 日 [土] —3 月 30 日 [日]
- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

- ・休館日＝毎月曜日

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。

② 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続する。新規寄贈品等を含めて調査を進め、より正確なデータベースを構築する。刀剣に関しては、その全身押型を作る（高山諮問委員担当）。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会（大会出席）。
- ・各種研究会および研修会参加（染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会）。
- ・科学研究費助成事業への参加。

(4) 美術品の補修

蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの（本体ならびに収納箱）、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。昨年度に引き続き、重要文化財 南浦紹明墨跡を修理する。

(5) 美術品の保存

今後の保存対策のため、所蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。

また収納棚の一部を改修し、作品を保護するための包裂・箱を順次修理することで、より安全に美術品の保存・管理を行う。

(6) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への当館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(7) 博物館界などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に参加するとともに、各種委員会や美術普及行事に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たすべく協力していきたい。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページの運営

五島美術館の公式ホームページ (URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>) を充実し、インターネット上での美術館や所蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とする 3～4 名とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。発行は平成 26 年 3 月 31 日の予定。

③ 普及事業

(1) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・招待茶会・展示説

明会を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(2) ギャラリートーク（展示解説）—入館者対象

- ・〔館蔵〕春の優品展—和歌の世界—

----- 平成 25 年 4 月 10 日、4 月 24 日、4 月 28 日、5 月 1 日、5 月 6 日の 5 回

- ・〔館蔵〕近代の日本画展

----- 平成 25 年 5 月 23 日、6 月 13 日の 2 回

- ・〔春敬記念書道文庫設立 30 周年記念特別展〕日本の名蹟—和様の書の変遷—

----- 平成 25 年 6 月 27 日、7 月 18 日の 2 回

- ・〔館蔵〕秋の優品展—禅宗の美—

----- 平成 25 年 9 月 25 日、10 月 8 日、10 月 17 日、10 月 20 日の 4 回

- ・〔館蔵〕茶道具取合せ展

平成 25 年 12 月 11 日、12 月 18 日、平成 26 年 1 月 9 日、1 月 24 日、2 月 13 日の 5 回

- ・〔館蔵〕中国の陶芸展

----- 平成 26 年 2 月 27 日、3 月 20 日の 2 回

* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(3) 茶会（当館主催）—茶の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 25 年 11 月 14 日～17 日の 4 日間

- ・第 2 回＝平成 26 年 3 月 13 日～16 日の 4 日間

* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(4) 陶芸講座（当館主催）—美の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 25 年 6 月 1 日・2 日 予定 定員（各日 35 名）

- ・第 2 回＝平成 25 年 9 月 28 日・29 日 予定 定員（各日 35 名）

- ・第 3 回＝平成 26 年 1 月 25 日・26 日 予定 定員（各日 35 名）

(5) 美の友会月例美術講座（当館主催）—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座（各月 1～2 回）として開催する。
各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の所蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

・漆芸鑑賞シリーズⅢ「漆芸の技法」

ウルシ科の落葉高木の樹液を採取して多彩な用途に用いる「漆芸」は、アジアの歴史と文化に 9000 年以上にわたり寄り添ってきた。漆は強い接着力を持ち、固化すれば美しい塗膜を作り、また高熱や酸にも耐える優れた性質を有している。この講座では、代表的な技法をあらためて基礎から学び、漆の文化の深い理解を試みる。

《担当＝五島美術館学芸部 福島 修》

第 1 回	平成 25 年 4 月 6 日 (土)	「漆の基本」
第 2 回	5 月 11 日 (土)	「塗る／描く」
第 3 回	6 月 8 日 (土)	「彫る／貼る」
第 4 回	7 月 6 日 (土)	「蒔く／研ぐ」

・染織鑑賞シリーズⅨ「茶の湯の裂」

茶席において人が装うように、絵画や書、茶入も表装や仕覆で装い鑑賞されてきた。今回は桃山・江戸時代の茶会記や文献などから、「茶の湯の裂」をキーワードにして、現代に至るまでの使用例や鑑賞の歴史を取り上げる。さらに名物裂とは何か、古渡り更紗とは何か、その具体例と文様から広がった影響の諸相なども紹介する(8・11 月は休講)。

《担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実》

第 1 回	平成 25 年 4 月 13 日 (土)	「茶の湯の裂」
第 2 回	5 月 18 日 (土)	「茶会記から考える表具裂」
第 3 回	6 月 15 日 (土)	「金襴一始まりは禅？」
第 4 回	7 月 13 日 (土)	「緞子・間道一茶人好み」
第 5 回	9 月 14 日 (土)	「唐物・和物茶入の仕覆」
第 6 回	10 月 12 日 (土)	「名物裂の逸話一吉野間道他」
第 7 回	12 月 14 日 (土)	「名物裂手鑑の世界」
第 1 回	平成 26 年 1 月 18 日 (土)	「裂筆筥とは？」
第 9 回	2 月 8 日 (土)	「亭主が楽しむ裂一包み裂・御物袋」
第 10 回	3 月 8 日 (土)	「更紗は名物裂？」

・特別展鑑賞シリーズ「光悦への道」

本阿弥光悦(1558～1637)は書や陶芸をはじめとする諸芸に通じ、傑出した個性を表したとされる近世初期の代表的な文化人である。光悦作と伝わる作品群は、優美な造形と鮮烈なデザイン感覚を示しており、現在に至るまで高い関心を集めている。しかし実際には、作品から「光悦」という人物に到る間には溝があり、明確な道筋が辿れない場

合が多い。本年秋に開催予定の特別展に向けて、四つの視座から「光悦への道」を探る。

第1回	平成25年4月20日（土）	「現代人に愛される光悦の陶芸」 《担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子》
第2回	5月25日（土）	「手紙に見る光悦芸術」 《担当＝五島美術館学芸部 名兎耶 明》
第3回	6月22日（土）	「出版文化と光悦」 《担当＝大東急記念文庫学芸部 村木敬子》
第4回	7月20日（土）	「光悦蒔絵とは何か」 《担当＝五島美術館学芸部 福島 修》

・書跡鑑賞シリーズⅧ「初期古筆の鑑賞」

仮名文字が完成されたのは、900年頃と考えられている。また昨年、800年代後半の仮名成立に関わる重要な資料が発見され、新聞をにぎわした。こうした仮名成立直後の、『古今和歌集』の和歌ほかが仮名文字で書かれ遺されてきた。そうした仮名遺品として比較的ふるい古筆(仮名筆跡の遺品)を選んで、鑑賞や読み方を解説する(11月は休講)。

《担当＝五島美術館学芸部 名兎耶 明》

第1回	平成25年10月5日（土）	「継色紙」
第2回	12月7日（土）	「高野切第一種」
第3回	平成26年1月11日（土）	「升色紙」
第4回	2月1日（土）	「古今集切ほか」
第5回	3月1日（土）	「重之集」

・漆芸鑑賞シリーズⅣ「存星クロニクル」

「存星」とは漆工品の分類名称の一つ。茶の湯では名物にもなり、「稀なもの」として珍重された。現在は一般に填漆（文様部分を彫り、色漆を充填する）の一種を呼ぶことが多いが、定義の境界が曖昧で、歴史的に見ても同じ意味で用いられておらず、人名と解釈される場合もあった。混沌たる様相の「存星」について、史料をたどりながらその年代記を編む（1月は休講）。

《担当＝五島美術館学芸部 福島 修》

第1回	平成25年12月21日（土）	「噛み合わない定義」
第2回	平成26年2月15日（土）	「名物の存星」
第3回	3月22日（土）	「意味の変化とその背景」

(6) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① こども美術講座「和歌と書道」 平成 25 年 4 月 14 日（日）
- ② こども美術講座「王朝絵巻の世界」 平成 25 年 5 月 4 日（祝）
- ③ こども美術講座「日本画を知ろう」 平成 25 年 6 月 9 日（日）
- ④ こども美術講座「いつ仮名はできたか」 平成 25 年 7 月 14 日（日）
- ⑤ こども美術講座「絵巻の詞書とは！」 平成 25 年 9 月 15 日（日）
- ⑥ こども美術講座「王朝絵巻の世界」 平成 25 年 10 月 14 日（祝）
- ⑦ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定（日程未定）

(7) 特別展関連行事予定

・[春敬記念書道文庫設立 30 周年記念特別展] 日本の名蹟—和様の書の変遷—
レセプション＝平成 25 年 6 月 21 日（金）
記念講演会＝平成 25 年 7 月 7 日（日）

・[特別展] 光悦—桃山の^{クラシック}古典—
レセプション＝平成 25 年 10 月 25 日（金）
記念講演会＝平成 25 年 10 月 26 日（土）、11 月 3 日（祝）、11 月 10 日（日）、11 月 23 日（祝）

(8) その他

・ミュージアム・コンサート
音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。
平成 25 年 7 月 25 日（木） NHK 交響楽団メンバーによる弦楽四重奏
平成 25 年 9 月 18 日（水） 杵屋五三魅社中による長唄演奏

・東急電鉄株式会社「キッズプログラム」に参加予定 平成 26 年 1 月中旬頃

[2] 文庫事業

① 収集・保存事業

(1) 図書保存

- ・書庫内の参考書誌、図書資料等と和古書との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・書庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料（辞典、叢書、全集、記録類等）を購入する。

② 展示・公開・調査・研究事業

(1) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第23回配本「伊呂波字類抄3」、第24回配本「諸芸Ⅱ」、第25回配本「伊呂波字類抄4」を刊行する。
- ・機関誌「かがみ」第44号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(5) 普及

- ・各種団体（大学・研究会・図書館等）の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(6) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(7) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

収支予算書

平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

財団法人五島美術館

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[11,635,000]	[10,005,000]	[1,630,000]
特定資産運用益	[0]	[100,000]	[△ 100,000]
公益事業収益	[147,500,000]	[105,811,000]	[41,689,000]
受取補助金等	[2,947,000]	[3,538,000]	[△ 591,000]
受取寄付金	[139,278,000]	[192,800,000]	[△ 53,522,000]
雑収	[30,000]	[30,000]	[0]
経常収益計	301,390,000	312,284,000	△ 10,894,000
(2) 経常費用			
事業費	[313,644,000]	[318,888,000]	[△ 5,244,000]
管理費	[26,228,000]	[31,325,000]	[△ 5,097,000]
経常費用計	339,872,000	350,213,000	△ 10,341,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 38,482,000	△ 37,929,000	△ 553,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 38,482,000	△ 37,929,000	△ 553,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 38,482,000	△ 37,929,000	△ 553,000
一般正味財産期首残高	2,404,000,000	3,937,626,773	△ 1,533,626,773
一般正味財産期末残高	2,365,518,000	3,899,697,773	△ 1,534,179,773
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	[0]	[250,000,000]	[△ 250,000,000]
一般正味財産への振替額	[△ 66,278,000]	[△ 42,800,000]	[△ 23,478,000]
当期指定正味財産増減額	△ 66,278,000	207,200,000	△ 273,478,000
指定正味財産期首残高	2,532,000,000	509,200,000	2,022,800,000
指定正味財産期末残高	2,465,722,000	716,400,000	1,749,322,000
III 正味財産期末残高	4,831,240,000	4,616,097,773	215,142,227